

なお、併せて「肥後医育振興会学術奨励賞」という賞を付与し表彰することとなりました。

**山本 真寿** (三十一才)

熊本大学大学院生命科学研究所 助教 がん生物学分野

「細胞膜におけるRORIを基軸とした時空間的なカベオラ形成機構の解明」

**俵 望** (三十五才)

熊本大学大学院生命科学研究所 特任助教 アジア神経難病研究・診療講座

**村田 唯** (二十八才)

熊本大学大学院生命科学研究所 厚労科研究員 分子脳科学分野

「統合失調症マウスモデルにおけるトランスポゾン転移機構の解析」

**村田 愛** (三十三才)

熊本大学発生病学研究所 特定事業研究員 分子細胞制御分野

「高速原子間力顕微鏡を用いたミトコンドリア膜の高分解能ダイナミクス観察」

**平成二十九年度(第二十一回)肥後医育振興会外国人留学生奨学助成を行う**

医学・医療国際交流支援事業の一つとして、平成二十九年度(第二十一回)肥

後医育振興会外国人留学生奨学金授与候補者の選考も、医学研究助成金授与候補者の選考に併せて行われました。

本年度の応募者は、熊本大学大学院医学教育部から四名、同薬学教育部から一名の計五名であり、その中から次の四名が授与候補者として選考されました。その後、理事長に推薦し、理事会において承認された後、それぞれに十五万円が贈呈されることになりました。

なお、併せて「肥後医育振興会優秀留学生表彰」という賞を付与し表彰することとなりました。

**布魯 克**

熊本大学大学院医学教育部 研究生(中国)

**DUANGCHIT SUTHAT**

熊本大学大学院医学教育部 博士課程二年(タイ)

**張 田力**

熊本大学大学院医学教育部 博士課程三年(中国)

**ADHIKARI DEVKOTA ANJANA**

熊本大学大学院薬学教育部 博士後期課程二年(ネパール)

(創薬・生命薬科学専攻)

**学生の自主活動への支援**

**「蕃滋祭」の開催にあたって**

第七回蕃滋祭実行委員長

熊本大学薬学部 創薬・生命薬科学科 三年 中村 遼太

この度は熊本大学薬学部の蕃滋祭運営のため肥後医育振興会助成金を賜り、関係者の皆様には深く御礼申し上げます。

肥後医育振興会のお力添えにより、私たちは、平成二十九年十一月四日(土)、十一月五日(日)に熊本大学大江キャンパスにおきまして薬学部蕃滋祭を開催いたしました。薬学部学生一同を代表してここに報告いたしますとともに、心から感謝申し上げます。

蕃滋祭は熊薬の地域貢献事業の一つと位置づけ、「世界に発信し、地域と共に創造する」をモットーに、一般の皆さん、熊薬在校生、卒業生に薬学のおもしろさを体感し、関心を高めてもらうことを目的とし、毎年開催しております。薬学展改め「蕃滋祭」という名称に変えさせていただきます。

今年で七年目となりました。「蕃滋」とは熊本大学薬学部の基となる薬園「蕃滋園」を由来としています。「蕃滋園」という名は、福利厚生施設「蕃滋館」として今もなお熊薬で受け継がれております。施設内には学生食堂、購買所などが設けられ、学生及び教職員が利用する憩いの場となっております。

今年の蕃滋祭では、ブロッコリーからDNAの抽出してもらったり、身近にある液体のpHを測定してもらったり公開実験、薬の仕組みや変わった名前のたんぱく質などについて、現役の先生からわかりやすく学ぶことができる模擬授業、実際に薬剤師の体験ができる模擬薬局、中国伝統医学に基づいた薬膳料理、キャンパス内を探索してもらい、薬草園を見て、触れて、味わえる学内・薬草園ツアーなど薬学部ならではの企画や、軽音楽部によるライブやミスコンなどのステージ企画、緑日をイメージした食べ物や遊びが充実した模擬店など様々な企画を実施することができ、来ていただいた方には大変満足していただけただけではないかと思えます。

今回の蕃滋祭を通して、多くの方々に楽しんでいただき、熊本大学薬学部と薬学についてより深いご理解とご支援を受けたと感じております。また、運営にあたって学生が切磋琢磨し、向上心と愛好心を培うことが出来ました。このような蕃滋祭を開催できるのも、偏に薬学部を支援してくださる皆様のおかげだという事を常に心に留め、これからもいっそう薬学部と医療全体の活性化のために学部生一同一丸となって邁進してまいります。

また、地域と医療の懸け橋となるべく、これからも蕃滋祭を通して地域の皆様にも薬学部を知っていただけるように頑張ります。

最後に、肥後医育振興会と熊本の医療の益々の発展を祈念してご報告とさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。

ごさいました。